

日蓮聖人門連だより

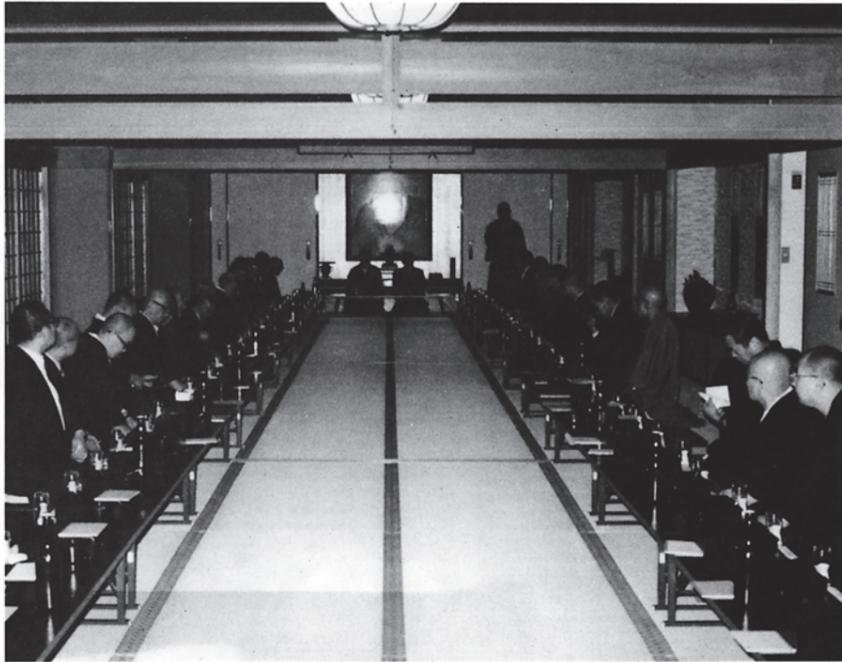
発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

平成元年1月15日
第6号

大阪日蓮聖人門下懇話会発足!!

十二月十一日、盛大に結成式挙行 今後の活動に全国の注目集まる

前号で予告した「大阪日蓮聖人門下懇話会」の結成式が去る十二月十一日、日蓮宗雲雷寺を会場に挙行された。今回の快挙はかねてより動き出していた同地での門下連合の集大成であり、京都について実現した地区門連の第二弾である。ここに当日の模様を詳細に紹介し、同行読者にかえたい。



懇親会（於：日蓮宗雲雷寺客殿）

結成式の受付は十二月十一日午後三時半より開始。会場である日蓮宗雲雷寺の山門前に「大阪日蓮聖人門下懇話会」の立看板が立てられ人目を引いた。

午後四時、定刻となり、法華宗真門流長鎌泰信師の司会で開会。まず法味言上が行われ、会場である雲雷寺の住職伊丹栄彰師が導師をつとめられた。

その後、議事の進行に移るに先立ち、座長選出があり、司会より指名の形で全員の賛同を得、日蓮正宗の高橋勇夫師が座長に就任。議事は進行された。

まず経過報告が、世話人代表、顕本法華宗の吉永正晴師より行われ、今日の結成を見るに至った概略報告がなされた。

前号にも紹介があるように、大阪地区での連合の動きは昭和五十五年（一九八〇年）に始まり、七十年遠志を機にいろいろな合同事業を経験し、全国門連の方針に沿って、今般ようやく結成にこぎつけることができた旨の報告。この報告には苦勞のあとがしのばれ、今後の運動に向けての力強い決意表明も併せて行われた。

ついで、会則審議に入り、世話人会で検討され、作成された「大阪日蓮聖人門下懇話会規約案」が上提され、一同の拍手をもって承認。以下にその規約全文を紹介しておく。



伊丹栄彰理事長

大阪日蓮聖人門下懇話会規約

第一条 本会は大坂日蓮聖人門下有志の寺院におく。

第二条 本会は日蓮聖人門下有志をもって組織する。

第三条 本会は日蓮聖人の遺徳を奉じ、異体同心を旨とし、四海帰妙の実現に努力すると共に、会員の親睦をはかることを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するため、次の行事及び事業を行う。

一、日蓮聖人報恩行事

二、布教興学に関する事業

三、その他目的達成のための行事及び事業

第五条 本会に次の役員を置き、任期は二年とし、補欠により就任した者の任期は、前任者の残任期間とする。

理事長一名 副理事長一名

理事若干名（十三名）会計一名

第六條 理事長、副理事長は、日蓮宗御法華宗御夫々の理事の互選により二年交代に就任する。理事は、日蓮宗より五名、法華宗各派より八名選出する。会計は、理事長が任命する。

第七條 理事長は、本会を代表し、



吉永正晴副理事長

会務を執行する。副理事長は、理事長を補佐し、事故ある時これに代る。理事は、理事会を構成し、理事長の招集により会務を決する。会計は、会計及び会務を司る。

第八條 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもって充てる。会費は、年額千円とする。

第九條 会計年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第十條 この規約の変更は、理事会の三分の二以上の同意を得、總會の承認を得なければならない。

第十一條 この規約は、昭和六十三年十二月十一日より施行する。

採択された規約にもつき新役員の選出が行われ、

理事長 伊丹栄彰（日蓮宗）
副理事長 吉永正晴（顕本法華宗）
理事 奥野正寛（日蓮宗）
神谷行宏（日蓮宗）
藤田文明（日蓮宗）
三田村宗鳳（日蓮宗）
高橋勇夫（日蓮正宗）
長鎌泰信（法華宗真門流）
門谷光瑞（法華宗陣門流）
菅原隆岳（法華宗本門流）
川野日安（本門佛立宗）
信隆允忠（本門法華宗）

同 麻田正廣（国柱会）
同 有光友信（日蓮宗）

新役員は、理事の伊丹栄彰師より挨拶。淡々とした口調の中に、自らのおかれた使命の重大なることにもふれ、今後の決意表明とも言うべき挨拶であった。

新理事長の挨拶を受ける格好で、当日下阪された全国門連理事長澁谷直城師より祝辞が述べられ、午後四時五十分、無事結成式の審議はつづき終了した。

ついで会場を同寺の客殿に移し、懇親会。

法華宗本門流の古田日穂師の発声で乾盃、和氣霽々の中に懇親の夕は続き、途中出席者それぞれ立ち自己紹介、日蓮聖人門下有志打ちそらい今後の連合発展に向け尽力する旨の決意表明、信解発表がつけられたのである。

懇親会正面に奉掲された日蓮聖人画像を中心にして、門下連合、異体同心の真の交りが完成するべくその意義ある一歩を印し、声高らかに門下懇話会発展の万歳を三唱し会は果てたのであった。

年頭挨拶

日蓮聖人門下連合会理事長

澁谷 直城

大行天皇の崩御に接し、各聖各位と共に、至心合掌、追悼の誠を捧げ、御尊靈の菩提増進をお祈りいたしましたと存じます。

昨年十二月十一日には大阪日蓮聖人門下懇話会発成式が大坂雲雷寺に於て執り行われ、和氣堂に充つる中、めでたく発会に至りました事は門下連合の将来にとって誠に明るい出来ごとと拝し、関係各位の御努力と篤き護法の志に對しまして衷心より合掌申し上げる次第であります。

一方北海道札幌を中心として準備世話人会なども開かれておられるとの報告を受けておりますが、この大いなる結束の氣運が各地に伝播拡張し、第二、第三の懇話会、連合会の誕生を願ってやみません。

さて「門連だより」も本号をもって六号を数え、門下各派各聖の貴重な御意見御提言の場、情報の提供等々、その果す任務は重且つ大なるものがあると存じ、一層の紙面充実を期待いたします。

門連の進路をさぐる「シリーズ」は門連相談役各聖から意義深き御提言をいただきましたが、先師先聖が開拓せられた門下連合の結束をよりゆるぎなきものとし、更に発展への道をさぐるものが私共の任務であると存じております。

来年は門連結成三十周年に相当し本年はその準備企画を中心として、門連発展に運動する真に意義ある三十周年に向け力を尽す所存であります。

何卒門下各派各聖の御力添えを御願ひ申上げ、御挨拶いたします。

從地涌出

歴史的に戊辰の年は、社会大乱激動の年であると言われるが、正しく前年六十三年は、日本社会世相全般にわたるその様相顕著であった。

そして新春早々、昭和天皇裕仁陛下が崩御され、日本国民にとって悲しい年の幕開けとなった。元号も「昭和」から「平成」へと改元され、新たな時代の一歩が記された。

昭和の六十年は、日本史上稀にみる激動の日々で大事件、戦争、波瀾の数々は枚挙にいとまがない。

その「昭和」も終焉を迎え、見直しが必然的に求められている。

しかし、その時の流れに常に我々日本人の支柱として、社会国家の安泰と人々の幸福を願い、終始無私公平を心がけ、産業文化の発展と国際親善に務められ、平和の保持を熱望されたのが、天皇陛下である。

天皇制、戦争責任のあり方など、諸々の立場に多少論議の余地はあろうが、その間、長期にわたる在位年数の過程、平和国家の建設と社会復興に尽され、日本の安定に大きく寄与された陛下の存在と、そのお人柄と業績を通じて「昭和」という時代を見つめ直すことは我々にとり大切であろう。

戦後の日本は経済的發展の面においては他の追随を許さず、繁榮の極に達し、我々はその恩恵を満喫している。

反面、家庭の崩壊、教育の荒廃、政治の腐敗、宗教界の混濁、自然破壊等々山積する課題は多い。

これらの諸問題を克服せねば、未来は開かれない。今こそ日蓮聖人の「立正安国」の本願を問ひ直す時であろう。

(A記)

シリーズ門下御本山巡り 5

大本山光長寺(法華宗本門流)

日法・日春両聖人の出会いは岡宮に法華の法灯を点す。

宗祖日蓮大聖人御舍利奉安の霊場光長寺を訪れる。



昭和大本堂(昭和41年落成)

法華宗(本門流)大本山光長寺

静岡県沼津市岡宮1055 〒410-0559-21-0484
JR東海道新幹線「三島駅」より車で15分
JR東海道本線「沼津駅」より車で15分
東名高速道路「沼津インター」より5分

愛鷹地方に布教されたとき、岡宮の天台寺院に赴き、天台僧空存はその教説にうたれ、天台宗を捨て法華宗に帰依した。空存は日法聖人の弟子にと願ったが、日法聖人の勧めで大聖人の門に入り、日春と名を賜った。日法聖人は日春聖人と協力して彼の地を教化せよとの師命により、同年精舎を建立し、岡宮の地に法華の法灯が点った。初めて本堂が建立されたのは、延慶四年(一一三二)で、日春聖人が願主となり、日法聖人の俗名徳永光長を寺号として、徳永光長寺と命名した。以来光長寺は、大聖人を開創初祖に仰ぎ日春・日法両聖人を同時二祖としている。日春聖人は日法聖人の教化を受けて改宗したが、当時日法聖人は十八歳。日春聖人はかつて天台宗にあって二位法印の位、日法聖人より二十八年も年長の四十六歳の高僧。教化した日法聖人も偉かったが、教えの勝劣を知ると遙か若年の日法聖人に帰依した日春聖人もまた素晴らしい方であった。

光長寺と日春・日法聖人
日蓮大聖人が甲斐地方を教化されたのは、文永年間といわれ、次第にこの地方にも題目の法音が広がっていった。大聖人の多くのお弟子の中で上足六老僧に次ぐ、中老僧のひとり泉阿闍梨日法聖人は、身延山にあって終始御師匠様の給仕と行学二道に励んでおられ、さらには布教活動にも大きな功績をあげられた。建治二年(一一七六)日法聖人は、富士

愛鷹地方に布教されたとき、岡宮の天台寺院に赴き、天台僧空存はその教説にうたれ、天台宗を捨て法華宗に帰依した。空存は日法聖人の弟子にと願ったが、日法聖人の勧めで大聖人の門に入り、日春と名を賜った。日法聖人は日春聖人と協力して彼の地を教化せよとの師命により、同年精舎を建立し、岡宮の地に法華の法灯が点った。初めて本堂が建立されたのは、延慶四年(一一三二)で、日春聖人が願主となり、日法聖人の俗名徳永光長を寺号として、徳永光長寺と命名した。以来光長寺は、大聖人を開創初祖に仰ぎ日春・日法両聖人を同時二祖としている。日春聖人は日法聖人の教化を受けて改宗したが、当時日法聖人は十八歳。日春聖人はかつて天台宗にあって二位法印の位、日法聖人より二十八年も年長の四十六歳の高僧。教化した日法聖人も偉かったが、教えの勝劣を知ると遙か若年の日法聖人に帰依した日春聖人もまた素晴らしい方であった。

愛鷹地方に布教されたとき、岡宮の天台寺院に赴き、天台僧空存はその教説にうたれ、天台宗を捨て法華宗に帰依した。空存は日法聖人の弟子にと願ったが、日法聖人の勧めで大聖人の門に入り、日春と名を賜った。日法聖人は日春聖人と協力して彼の地を教化せよとの師命により、同年精舎を建立し、岡宮の地に法華の法灯が点った。初めて本堂が建立されたのは、延慶四年(一一三二)で、日春聖人が願主となり、日法聖人の俗名徳永光長を寺号として、徳永光長寺と命名した。以来光長寺は、大聖人を開創初祖に仰ぎ日春・日法両聖人を同時二祖としている。日春聖人は日法聖人の教化を受けて改宗したが、当時日法聖人は十八歳。日春聖人はかつて天台宗にあって二位法印の位、日法聖人より二十八年も年長の四十六歳の高僧。教化した日法聖人も偉かったが、教えの勝劣を知ると遙か若年の日法聖人に帰依した日春聖人もまた素晴らしい方であった。



宗祖御尊像(日法聖人作)

日蓮大聖人の御舍利を感得
弘安五年十月十三日、法華経の中で本仏の囑を受け、末法における法華経弘通のため大小の法難を忍受し、その使命を果たされた日蓮大聖人は武州池上において世寿六十一歳を以て入滅された。御遺体は池上邸の東敷において荼毘にふされたが、それを幸願したのが日法聖人である。お骨あげが済んで人々が去った後もなお去り難く、日法聖人は唯一人唱題しながらその跡を深めていくとき、聖者のみに見られる大聖人の御舍利数顆粒を感得せられた。日法聖人は、早速小さな五輪塔を彫ってその中に

御舍利を収め、御生前の御師匠大聖人に給仕することく肌身離さず奉持しておられた。五輪塔の箱には「本門日蓮大聖人御舍利 弘安十月十三日武州池上東敷」とあり、これは現在光長寺に伝わる霊宝の一つである。

光長寺の御宝物は、歴代先師の護法愛山の護念により、幾度かの火厄に遭遇しながらも多くの宝物を護り伝えてきた。先述の宗祖御尊像・宗祖御舍利のほか特筆すべきものに宗祖御真筆二十八紙大曼荼羅がある。この御真筆は、弘安元年十一月二十一日に御図顕されたもので、世に「楊柳(ヤナギ)の曼荼羅」と称されている。甲州小立村の信者二十八人の請により、二十八枚の紙を継ぎ、柳の枝を筆に仕立て、講頭藤大夫日長等にお授けになったもので、現存する宗祖御真筆の中で最大(二四七〇×二二五四)のものである。他に日法聖人の直授である大聖人の講義記録の『蓮々御開書』『御法門御開書』は、直接、大聖人の教えを知ることができるだけでなく、鎌倉時代の言葉やその使い方を知る貴重文獻である。近年、その書簡文の裏書きが発見され、宗祖大聖人研究の分野を開く貴重な文獻であることが分った。その他「下山抄」「山門申状」(共に写本、唯一の刊本)等の日法聖人筆のもの、また日春聖人筆の『宝物集』は原本のない今日、駿河光長寺本として最古の写本であり、国文学上貴重な資料である。他には庶民信仰と芸術と融合した文化史上貴重な作品の『五色繡字法華経』や『紺紙金泥妙法蓮華経』、『一字三礼妙法蓮華経』等の宝物が格納されている。

光長寺の幾多の先師の中で、門流法運中興本果院日朝聖人の業績は大きい。光長寺檀林の学頭をしていた日朝聖人は、門流再興唱導師日隆聖人が回達された「法華天台両宗勝劣抄(四帖抄)」を「覽」になって、日頃疑問に思っていた教学上のいろいろな問題が解明されているのに感激し、永享七年(一四三五)京都本能寺に日隆聖人を訪ねて、道友師弟の礼をとられた。両聖人は、東西相応れんことを誓い、一味法水・人法互通の約を取りかわされ、西の日隆聖人は本能寺・本興寺を拠点として、東の日朝聖人は光長寺において、本門八品上行所伝の教旨を弘通されることとなった。これを宗門では「東朝西隆」と称している。

近年、その書簡文の裏書きが発見され、宗祖大聖人研究の分野を開く貴重な文獻であることが分った。その他「下山抄」「山門申状」(共に写本、唯一の刊本)等の日法聖人筆のもの、また日春聖人筆の『宝物集』は原本のない今日、駿河光長寺本として最古の写本であり、国文学上貴重な資料である。他には庶民信仰と芸術と融合した文化史上貴重な作品の『五色繡字法華経』や『紺紙金泥妙法蓮華経』、『一字三礼妙法蓮華経』等の宝物が格納されている。



宗祖御舍利

年中行事
年頭國護会(一月元旦より三日まで)、御開山会(四月五日)、千部会(四月六日から十日間)、二十八紙大曼荼羅開展の虫干会(七月二十五日)、宗祖御会式(十月十三日)及び朝師会(十月二十五日)等のほか、年間を通して盆、彼岸、釈尊聖日、宗祖聖日(御法難会)等の報恩法要並びに毎月例会(五・十三・二十五日)を修している。

光長寺の幾多の先師の中で、門流法運中興本果院日朝聖人の業績は大きい。光長寺檀林の学頭をしていた日朝聖人は、門流再興唱導師日隆聖人が回達された「法華天台両宗勝劣抄(四帖抄)」を「覽」になって、日頃疑問に思っていた教学上のいろいろな問題が解明されているのに感激し、永享七年(一四三五)京都本能寺に日隆聖人を訪ねて、道友師弟の礼をとられた。両聖人は、東西相応れんことを誓い、一味法水・人法互通の約を取りかわされ、西の日隆聖人は本能寺・本興寺を拠点として、東の日朝聖人は光長寺において、本門八品上行所伝の教旨を弘通されることとなった。これを宗門では「東朝西隆」と称している。

光長寺の幾多の先師の中で、門流法運中興本果院日朝聖人の業績は大きい。光長寺檀林の学頭をしていた日朝聖人は、門流再興唱導師日隆聖人が回達された「法華天台両宗勝劣抄(四帖抄)」を「覽」になって、日頃疑問に思っていた教学上のいろいろな問題が解明されているのに感激し、永享七年(一四三五)京都本能寺に日隆聖人を訪ねて、道友師弟の礼をとられた。両聖人は、東西相応れんことを誓い、一味法水・人法互通の約を取りかわされ、西の日隆聖人は本能寺・本興寺を拠点として、東の日朝聖人は光長寺において、本門八品上行所伝の教旨を弘通されることとなった。これを宗門では「東朝西隆」と称している。

光長寺の幾多の先師の中で、門流法運中興本果院日朝聖人の業績は大きい。光長寺檀林の学頭をしていた日朝聖人は、門流再興唱導師日隆聖人が回達された「法華天台両宗勝劣抄(四帖抄)」を「覽」になって、日頃疑問に思っていた教学上のいろいろな問題が解明されているのに感激し、永享七年(一四三五)京都本能寺に日隆聖人を訪ねて、道友師弟の礼をとられた。両聖人は、東西相応れんことを誓い、一味法水・人法互通の約を取りかわされ、西の日隆聖人は本能寺・本興寺を拠点として、東の日朝聖人は光長寺において、本門八品上行所伝の教旨を弘通されることとなった。これを宗門では「東朝西隆」と称している。

日本交通公社

軽快な店舗

ご存じですか、知って頂くJTBのお店。旅のことならJTB。暮らしのあれこれもJTB。お近くのJTBをぜひお気軽にご利用ください。

For Your Travelife **JTB**

JTBのお店はフットワークが軽快です。

団体旅行やイベントのご計画はぜひお近くのJTBのお店へお気軽にご一報ください。ベテランスタッフがすぐにおうかがいします。プランニングや運営のお手伝いはJTBがわりわけ得意とする分野です。

JTBのお店は電話が軽快です。

きっぷや航空券、宿泊のお申し込み、旅のご相談、お問い合わせ...なんでも電話で承っています。お気軽にお電話をください。

(全国の旅館、ホテルのご予約がお近くのJTBに電話1本で完了。お支払いは現地で、カードでOKという便利なシステム「たびがる」もあります。)

JTBのお店は品揃えが軽快です。

きっぷや宿泊などの旅のパーツに始まって、国内旅行「エース」、海外旅行「レック」「レント」。「ナヴィ」、海外からのお客様への旅「サンライズツアー」など、主要ブランドのバック旅行をドカッと取り揃えています。旅どころが芽ぶいたら、お気軽に立ち寄り、ドゥッサリ揃ったパンフレット・ハンティングをどうぞ。

JTBのお店はインフォメーションが軽快です。

JTBのお店のパワフルなコンピュータシステムはJR、エアライン各社や、全国の旅館、ホテル3,300軒をオンライン。瞬時のご予約やご案内をしています。さらに市内300店、海外30都市を結ぶネットワークで、ホッパ旅の情報を提供。一歩中へ入ると、あなたの旅どころをガゼンとめさせる、ライブ情報ショップです。

旅をもっと楽しくする品揃えも軽快です。

- 旅をラクラク実現する旅行券の分割払いプラン(たびたび)
- トラベル&レジャーカード(YES JTBカード)
- 旅のライブ情報ブック(JTB時刻表)&(ガイドブック)
- いい旅を支える(国内旅行総合保険)&(海外旅行傷害保険)
- サインひとつでキャッシュの動き(トラベラーズチェック)

暮らしをもっと快適にする品揃えも軽快です。

JTBのお店の人気ギフトアイテム

- 旅を贈る(ギフト旅行券)、(ギフト旅館券)、(ギフトホテル券)
- 使える便利は贈る便利。デパート共通商品券(ナイスショップ)
- デリシャスなギフト。一流レストランお食事券(ナイスグルメ)
- 日本と世界の美味を運りすぐって宅配(産地直送便) 応じます。気分がいい生活
- レジャーから暮らしまでカバーするJTBの保険(未来星)
- ヨーロッパからキラキラのブランド品を直輸入(ユーポート)
- 国内も海外も種々なお手伝い(JTBの引継ぎ)

*ご紹介したJTB店舗のメンバーは、一部支店ではお取り扱いしていないものもあります。詳しくは、お近くのJTB各支店へお問い合わせください。

奉吊

日蓮宗宗務院

管長 岩間 日勇 教務部長 頂岳 龍乘
 宗務部長 澁谷 直城 護法伝道部長 吉田 宏遠
 宗務副総長 森 惠遠 現代宗教研究所長 石川 教張
 綜合企画部長 金坂 信章 参 与 白部 健順
 庶務部長 橋田 文啓 参 与 岡田 法順
 財務部長 伊藤 速雄 日蓮宗新聞社社長 千野 信和

〒146 東京都大田区池上一―三三―一五
 電話 〇三(七五二)七二八(代)
 FAX 〇三(七五二)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長 藤田 日浄
 宗務部長 松井 孝純
 教務部長 古田 日穩
 庶務部長 渡辺 修翁
 教化部長 大橋 周光
 財務部長 中村 宏龍

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
 電話 〇三(九一〇)四七五(代)
 FAX 〇三(九一八)七九九四

顕本法華宗宗務院

管長 古瀬 日宇
 宗務部長 吉永 正晴
 宗務次長 山田 信正
 財務部長 飯澤 道宣
 布教部長 山本 学人
 教務部長 平田 浄應
 社会部長 田島 敏義
 庶務部長 島田 幸晴

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九二)七一七一

法華宗(陣門流)宗務院

管長 野口 日騰
 宗務部長 牧野 琢成
 總務部長 土屋 善敬
 教務部長 都築 哲信
 教化部長 金原 戒雄
 財務部長 江坂 隆俊

〒170 東京都豊島区巢鴨五―三五―六
 電話 〇三(九一八)七二九〇
 FAX 〇三(五七六)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

講有 梶本 日裔
 講尊 小山 日幹
 宗務部長 井上 日慶
 宗務副総長 齊藤 日敬
 宗務副総長 松井 卓次
 宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東登町三〇番地
 電話 〇七五(四六一)一六六(代)
 FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長 嘉儀 日有
 宗務部長 住友 頭一
 總務部長 丹治 義順
 財務部長 今村 要道
 教務部長 今村 要道

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三三九〇

法華宗(真門流)宗務庁

管長 林 日圓 参 与 吉田 勝秀
 宗務部長 吉田 研宏 参 与 上田 浩岳
 總務部長 長鎌 泰信 教学主事 小島 玄城
 教務部長 上嶋 智岳 教化主事 岩崎 峻暉
 教化部長 左神 信学 財務主事 笹木 研秀
 社会部長 蓑輪 溪玉 書記 矢放 真文
 財務部長 小西 法明 書記 矢放 真文

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
 電話 〇七五(四四一)五七六二

本門法華宗宗務院

管長 佐野 日紀
 宗務部長 吉村 信尚
 宗務部長 高辺 誠亮
 財務部長 山下 通雄
 總務部長 信隆 允忠
 教務部長 飯田 信栄
 庶務部長 藤井 宏長
 門連常任理事 木村 光紹

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
 妙蓮寺
 電話 〇七五(四五二)三二五二七

国柱会

宗教法人
 会長 田中 香浦
 理事長 加倉井 清信
 副理事長 中平 千三郎
 国柱会本部・妙宗大靈廟
 講師 大橋 富士子 必武館副館長 家田 仙次
 講師 大屋 敬吉 会計部長 大屋 統子
 講師 大橋 邦正 組織部長 木村 司
 講師 長井 君夫 総務部長 長瀧 光雄
 講師 関口 宏 庶務部長 江口 和敏
 講師 秋場 善彌 事務局次長 新山 信男
 〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
 電話 〇三(六五六)七一―二(代)

日本山妙法寺

首座 上野 行量
 〒542 大阪市南区南船場一―三三―一
 電話 〇六(二六二)三二二六

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 林 日圓
 副会長 沖 日亨
 理事長 上田 浩岳
 副理事長 藤田 尚慈
 〒602 京都府京都市上京区智恵光院通五辻上ル
 是好院
 電話 〇七五(四五二)八九九〇

ぐる」連載を終りて

基盤を固め、質的転換のための 意義ある提案をどう生かすか!!

あたらしい年の訪れである。万物生成の基たる妙の一字を思い、一年の意義ある展望を読者各位と共にしたいと念ずる。その年頭にあたり、今号では試みに本紙編集委員による匿名座談会を企画した。本企画は、本文中にも出てくるがシリーズ「門連の進路をさぐる」終了にともなう総括をかねた将来展望である。

日蓮聖人門下連合会がなされている現状をふまえ、いかに前進し連合の実を目指すべきか、この大きなテーマに取り組むには編集委員のみの語りでは余りにも非力僣越といわねばならない。

しかし、このテーマは本紙に与えられた最も大切なもの、とうぜん本紙編集に携る者にとつても最大の関心事だ。

その関心事について、自己反省もこめ、あえて日頃の思いを貴重な紙面にぶつけさせていただいた。読者諸聖のご叱声、ご批判を仰ぎたく切に念ずるものである。

(編集部)

建設的な進路をさぐる

司会 本紙もようやく五号の発行が終り、今号で六号を迎えるわけですが、これから本紙の方向を決める上で重要な節目になろうかと思われま。創刊以来、ここまで続けてきて、とくに二号から連載された「門連の進路をさぐる」も前号で一応終了したわけだ。

このシリーズで執筆いただいた門連相談役各師のご提言やご忠告なりを、ただ書き放し、言い放しにするのでなく、各ご提言を総括し、今後の門連運動と方向性、とくに本紙編集上の糧にしなければならぬ、こう思っています。本日編集委員の皆様にお集まりいただいた次第です。腹藏のない、本音を漏らしていただく狙いで、あえて実名は出さず、匿名座談形式を採用したいと思っております。皆さん自由に意見を出しあってくださいね……。

A 本紙の読者各位にあらためて「門連の進路をさぐる」シリーズの執筆を紹介させていただきます。創刊号では、これはまだシリーズ化されてはいませんでしたが、国柱

「宗我をさぐる」ことの必要性

C そこで、具体的な問題に入っ

てゆきたいのですが、古瀬上人が書

かれていたことに「宗我をさぐる」というのがあります。

「宗我」ということは宗派意識にこだわらずにつづけることだと思いが、たしかにこれは大切なことだと思えます。

しかし、たとえば私が門連の場に出る、編集委員として参画するといふような場合、自分の所属する宗派意識を捨て切ることがなかなか出来ない。

いつも自分の宗派の看板が両肩にかかっているものですから、「宗派の代弁者」という立場が離れないのです。

だから、宗我をさぐるということの難しさは、門連自体がかかえる根底問題として存在している気がしません。

G しかし、その意識を無くさなければ門連の本来の姿はあらわれません、と言えませんか。

E 問題は宗我を離れる方法論が門連の中でどのように考えられているのか、ここにあるのではないかと

門連三期論の説得力

B そこで、その基底をふまえて申しますと、門連の第二段への移行というのがありますね。

C ええ、齊藤上人の提言は、まさにその点にあります。

門連の過去を第一期とし、現在を第二期、そして未来を第三期に区切るべきだと。

齊藤上人が言われるこの三期論は門連のえがく将来図としては実に面白く感じました。

要である、こうも感じました。

H 今回のシリーズに共通したことは、門連加盟教団がそれぞれ教団の役員を理事として送り、構成される理事が即門連であってはならない、これではないでしょうか。

G 役員レベルから全宗的なレベルにわたる組織。

C 檀信徒をもふくめた連合体の構築、これが第二段へふみ出すことだと。

D 踏み出す必要性は理論上はすでに認められている。あとは実行に移すことだけだとする齊藤上人の議



日蓮聖人御草庵跡

祖廟中心の再確認を

論はたしかに充分たる説得力がありますね。

I そこで次に出てくるのが、連合の精神支柱の認識ですね。

E たとえば水本上人が指摘されたことに信仰を中心とする連合体的なことから、宗務行政レベルはもちろんな、それに各宗本山、いわゆる信仰の土台ともいべき寺院レベルが参加した連合体をいざ、ということがありました。

B ああ、水本上人の提言、国連方式ではないけない、真にパワーを発揮するための行政から本山への質的転換ということ……。

C たしかにこれまでの連合体が行政主導であることは否めませんよね。しかし、ここに至るまでは仕方のないことでもあった、これは事実でしょう。

F ですから、水本先生の指摘が出てくる要素があるわけで、ここらで、この精神支柱の再認識という作業をすすめることは意義多い、こう言えますね。

私は、その点で、今一度「祖廟中心」ということを考えてみたいと思

D 門連として実施しなければならぬことに祖廟輪番奉仕があると

輪番奉仕の精神は、聖人滅後六老僧などにより実施されたものを、門下各派が現在に行うものでまさに祖廟中心の精神の体現です。

H 門連のために身延山当局が祖廟を開放されたということも聞いていますか……。

司会 そのとおりです。門下連合会の要請で、身延山が大英断をもってそれに踏み切ったという歴史があります。

D しかし、門連としてそれを実施している宗派は少ない。

A 問題はその辺にもありますね。切角身延山が輪番旗を用意してまで協力の姿勢を打ち出しているのに、門連の方が、逡巡して前へ進まないのでは、これはうまく行かない。

F しかし、この問題には身延法論とか、過去のしがらみがつきま

身延に参拝することで日蓮宗にのみ込まれる、俗に言う軍門に降る、ということもあります。

D 私は身延山というのは、あくまでも日蓮聖人のお墓、祖廟が中心なのであり、身延山久遠寺云々の問題ではないと、はっきり区別してい



門連の精神支柱、祖廟

シリーズ「門連の進路をさ」

新春編集委員座談会

ます。
 B もちろん私もその考えには大賛成です。祖廟に参拝するのは、これは誰人といえども日蓮聖人の門下であれば反対する者はいないでしょう。
 C ご真骨の問題も未だ一部にはくすぶっていたりして、上層部の方ではすんなりと行かない点も現実です。
 司会 今、ご真骨の問題が出ましたが、これはすでに本紙の第二号に当時の理事長名で公式の見解が出されておき、すでに解決していることだと思われませんか。
 H われわれのレベルで話し合わなければいけないことは、過去のことでなく、現在、及び将来どうすれば祖廟中心の実が挙げられるか、これでしょう。
 そのためにつねづね思っているのですが、日蓮宗におかれては微塵も他派を糾合しようとか、数の力でものごとを解決しようとか、それは無いと思いますが、より気をつけ細心の注意をはらって誤解を与えないようにしていただきたい。
 また法華宗側におかれても、何でも疑いの目だけで見ないで、自分らの責任も果たす、そうして両者が相寄り寄り祖廟輪番を制度化すべく実現する。

A 連合体のもつ強さと脆さ、これは宿命みたいなものがありますね。強さの方は異質の団体が結びつくと特異なパワーが出てくることがあります。幕末の薩長連合などその好例ですが逆に脆さもついて回ります。
 F 脆さ、ということではありませんが、連合体に参加はするが、賛成してのものではなく、おつきあい程度で、ということがあります。
 C 記念事業の分担金の問題にしても、寺院数に応じた按分方式を採用して、出しゃばってはいけな

理論小委員会の設置を

実践しなければならない。こう思っています。
 司会 個人的には只今の意見には理解を示せるのですが、宗団の一員となると、それは簡単に行かない点もある。これが宗我かも知れませんが……。
 D 祖廟の問題にも関連してくるのでしようが、各宗派の教義問題をどうするのか、これも依然そのままだとね。
 C 教義論争というのか、その問題を今持ち出す必要があるのでしょうか。
 B たとえば本論争など手をつけ出したらそれこそ収拾がつかなくなる。
 E 教義の違いを鮮明にすることよりも共通項を探し出す論争が必要なことでは……。
 D いや私の言いたいことも実はそこにあります。
 建設的な論争というのか、研究というのか、むしろ教義論争を行うことで、そうした教義論争の時代的展開、限界性ということが分る世界があると思っております。
 司会 ちょっとと述べさせてください。司会 ちよつと只今のお話しの内容をふまえて、地涌クラブが門下有

会費に見合う効果は

……。
 司会 何はともあれ、門連の精神支柱が祖廟にあることはみなさん異論の無いことですから、よい方向にもってゆく努力をしようではないですか。
 志でもたれました。
 宗派を離れて個人の資格で、教義思想の問題を論じ合おうという性格だったのですが、残念ながらその会は中断しています。
 H ここで、それを復活させて、新たに理論小委員会の運営をすることが必要かもしれません。
 H 一つは思想・信仰の問題に立ち入らなくてはならないのですから、その理論委員会はぜひ実現したいものですね。
 門連として正式にそうした機関を認知していただければ大きな力になるのでは……。
 E その会には編集委員だけが参加するというのはなく、各派教団から志ある方々、あるいは各宗派選抜ということでも結構ですが、そうしたゆけば面白い会が出来るかもしれないですね。
 B 論争は侃侃と、信仰は謙謙と、この精神で行くべきだ。

いうひかえ目な姿勢、今日の座談会でも余りしゃべらない方がよいと消極的になつてしまつたか……。
 D その消極さが、不知識のうちには脆さにつながつてきているのでは……。
 E 先程の看板ではありませんが、組織というのは往々そうした冷厳な面をもつ、こつとも言えます。しかし、門連は世間通途の連合体とはちがうわけですから、何か他には見られない強さを出すべきではないでしょうか。

それは必要なことだと思えます。それと連合体であるかぎり見返りといえますか、会費を負担している、それに見合う実利が無ければ、それなりのもので終つてしまつ、こうも言えるのではないのでしょうか。
 E もちろん、その面は無ければならないでしょう。
 F たとえば門連の会費が年間何百万円になつても、自らの教団にそれ以上のプラスになる効果が期待できるとなれば、会費値上げの不満も一挙に解消できるはずですよ。
 E 多額の会費を負担しても、それに見合うもの、たとえば布教活動上の必要品を門連で共同開発するとか、あるいは海外布教の情報センターをつくつてそこで各種の情報に加わると考えられますね。
 要するに日蓮聖人の宗教が広まる方向に焦点を絞り込めばよいわけですよ。
 A ただ会費だけ集めて、懇親会だけで終るといふのなら、そのうちに会費の負担も何かしらむなしくなつてしまつ、そうした危惧があるのではないですか。
 司会 いや、だからこそ、本紙の存在が重要になってくるのですよ。門連の事業の中で、只今のお話してふまえて言えば、この「門連だより」が意義ある見返りといえるでしょう。毎号掲載される「各派短信」をとつてみても、門下各教団の動静が手に取るように一目で分る、この情報提供でも現在、非常に有意義なものです。
 今後の充実いかんで、もつともつと気の利いた機関紙に育てあげることが出来るものと固く信じています。
 G そうでした。司会者のおっしゃるとおりです。本紙の使命のひとつは、まさしくそこにあります。
 司会 本日は長時間、有意義な座談会をありがとうございました。今日、皆さんに述べていただいた諸点を誠意をもって実践して行かねばならないと強く感じました。来年は、本会結成三十年を迎えますが、それに向け本紙も皆さんのご協力を得て、充分実りあるものにして参りたいと念じております。

展転社 東京都台東区東上野4-11-5 〒110
 tel 03-841-0821 fax 03-845-0662

ひとくちに本をつくるといつても、さまざまな制作工程の組み合わせが考えられます。例えばその印字方法(タイプか、活字か、写真植字か)、印刷方式(活版か、オフセットか、グラビアか)によって、その本の風趣も微妙にちがってくるのです。
 弊社では、法話集・寺史・追憶集・歌集・句集・ガイドブックなど、おあずかりした原稿の編集、装幀を専門家が担当するのはもちろん、お客さまのご要望に最も適した本づくりにつねにこころがけております。また、弊社の出版図書コード(ISBN)を付すことにより、全国書店での販売も可能です。詳しくは弊社までご一報下さい。

*** 全国書店にて好評発売中**

武田乙若(山川智広)	定価	三〇〇〇円
経一庵―日蓮聖人の伝―	定価	一一〇〇円
井上日宏	定価	四八〇〇円
おのれに惚れる	定価	八〇〇円
里見岸雄	定価	四八〇〇円
里見岸雄論文集I	定価	八〇〇円
深澤泉奥	定価	八〇〇円
法花讀語抄	定価	八〇〇円

宗教法人 出版部
国柱会 真世界社

東京都江戸川区一ノ江6-19-18
 〒124 (03)656-7111
 郵便振替 東京5-195556

〈田中智学先生第五十回忌報恩記念出版〉

天下は愚に亡ぶ	田中香浦編	八〇〇円
田中智学先生第五十回忌報恩記念出版	田中智学先生	―
田中智学先生の思い出	田中香浦編	四八〇〇円
田中智学先生の碑	大橋富士子作	一一〇〇円
田中智学の少年時代	大屋敬吉作	一三〇〇円
日蓮主義研究(第13号)―五十回忌記念特集―	―	一五〇〇円
田中智学自伝 全10巻	田中智学著	三二〇〇円
日本國體の研究	田中智学著	八〇〇〇円
日蓮聖人の宗教	田中香浦著	九八〇円
これからの世界・人間	田中香浦著	一三〇〇円
田中智学(評伝)	田中香浦著	一四〇〇円
日蓮主義の研究	田中香浦著	二〇〇〇円
日蓮聖人(小説)	西川 満著	一三〇〇円
私たちの法華経	田中富士子著	八八〇円

門連時報

昭和六十三年度 日蓮聖人門下連合会理事会 京都門連との懇談会開催!!

於・京都本隆寺 十一月二十九日

恒例の日蓮聖人門下連合会理事会と京都日蓮聖人門下連合会との懇談会が去る十一月二十九日(火)正午より、法華宗真門流総本山本隆寺を会場として開催された。

本隆寺本堂にて正午開会式。林日圓管長親下御導師のもと異口同音に法味を捧げた。この後約三十分間、本隆寺の沿革について林管長親下の講演が行われた。本隆寺は本年開祖日真大和尚五百遠忌法要を奉行、承応、明歴の大火にも難をまぬがれ、「焼けずの寺」と稱される本堂、祖師堂は、その歴史的背景と共に高い文化的評価を受けている。

記念撮影の後書院にて開議。全員自己紹介の後、渋谷直城理事長長となり議事を進めた。

柴田和延幹事が別紙資料にもとづき上半期門連事業報告。富川孝恭幹事が「門連だより」第五号、第六号に関し報告を行った。

次に上田浩岳京都門連理事長より京都門下連合会事業報告が行われた。地方門連結成準備に関しては吉永正晴常任理事の報告に続き十二月十一日発会式を予定している「大阪日蓮聖人門下懇談会」より、伊丹栄彰(日蓮宗)、長鎌泰信(真門流)両師より経過報告、加盟申込みは一九〇名余に達している現況につき報告がなされた。

並河頭周幹事からは北海道門連結成準備につき具体的推進につき明るい展望が報告された。報告事項に続いて「門連結成三十周年記念」についての案件に入り、大橋邦正常任理事より別紙提案書が配布され説明提案が行われた。提案の主な内容は、二年後(平成二年)は門連結成三十周年に相当するので「内に本会存在の認識をふかめ、一層機能を発揮して



北海道門連設立趣意書案が採択される。

午後五時よりかつての連門懇親会会員二十五名が出席して開催された結成予備会では、冒頭白部健順師が

去る十一月二十五日、札幌ローヤルホテルを会場に「北海道日蓮聖人門下連合会結成予備会」が開催された。

懇親会から連合会へ！北海道門連結成予備会が開かれる。

於・札幌ローヤルホテル 十一月二十五日

- 1、日蓮聖人門下連合会結成三十周年記念集会(記念慶讃法要・物故各聖追善回向・記念講演)
- 2、結成三十周年日蓮主義宣揚大講演会、各派より講師出席して開催(参加動員、各派勢力に応じて檀信徒の動員を図る)
- 3、結成三十周年奉告 祖廟輪番給仕(門連全役員による)
- 4、記念出版 日蓮聖人門下連合会史(30年の門連活動の歴史をまとめ、後世に伝える。有料頒布制にて刊行費を支持、各派部数引受けを原則)

その他京都門連上田理事長より二年後、京都門連主催にて京都府立文化博物館で行われる「法華文化の歴史展」に各派より展示物出品協力の要請がなされた。

午後三時開議を終了し、会場を移し「しようざん」にて懇親会が行われた。

「田中智学の世界展」が九月二日から七日まで東京・日本橋の東急百貨店ランドホールで開催された。田中智学先生第五十回忌を記念して開催されたもので主催は産経新聞社・田中智学の世界展実行委員会。後援は日蓮聖人門下連合会はじめフジテレビ、ニッポン放送、サンケイスポーツ、夕刊フジ。



会場のランドホール入口

田中智学先生と交流のあった文化人とかかわりを中心に、仏教の近代改革をめざした先生の果たした意義をさぐるもので、会場には「道遥そして演劇」寛・晶子、白秋、江戸情調「賢治、芸術と宗教」大観、富士への憧憬「田中智学」のコーナーが設けられた。入口では九面マルチ

妙法蓮華経写経セット

方便品第二 如来寿量品第十六 如来神力品第二十一 観世音菩薩普門品第二十五
(十如是まで) (自我傷) (神力傷) (観音傷)

監修 小池英淳 発行 日蓮宗新聞社

● 初心者でもすぐ取り組める

● お経文の字体に近い写経手本

● 内容豊富な手引書付き

● 高級三極和紙に銀界入り

信行会のテキストに一人での写経実修にご寺院への奉納に

卷子本付特別セット **新発売**

定価 **5,000円** (¥700別)

Aセット (用紙セット・手引書)

定価 **3,000円** (¥350別)

Bセット (用紙セット)

定価 **2,500円** (¥350別)

〈セット内容〉

- 写経手本
- 料紙 本三極紙
- 清書用紙 12枚
- 薄墨練習用 8枚(各2枚)
- 写経の手引(解説書)
- 勤行要典
- 17字用、5字偶用紙野
- 卷子本セット

※上記は特別セットの仕様です
※まとめて10部以上割引あり

お問い合わせ・お申し込みは 日蓮宗新聞社 03(755)5271

各派・教団 短信



京都門連

●日蓮聖人門下連合会京都理事会開催

11月29日正午より、法華総法本山本隆寺に於て京都理事会が開催された。京都各御本山より10名の貫首以下のご臨席を賜り盛大且つ有意義に運営された。会議後洛北「しょうざん」に席を移し各現下の挨拶も含めて意義あるひと時を過ごした。

●法華文化の歴史展開催される。平成2年3月から6月の間の約1ヶ月間法華文化の歴史展(仮称)を開催することになった。会場は京都文化博物館を予定している。府立大学の藤井学先生の監修によりこれから本格的な準備に入るが、宗教、実行工芸、文化等のコーナーを設け檀信徒に限らず一般の愛好者の参観を希望している。(上田浩岳)

法華宗門流

●市中小企業センター

●法華宗門流 市中小企業センターにおいて、第2回法華宗教学研究発表大会が開催された。初めに宗門史編集室長でもある宗務総長松井孝純先生より「宗門史の周辺」と題して基調講演が行われた。続いて12名の発表者が、日頃研鑽している、宗学・宗門史・布教法要儀式・仏教学および仏教文化等のジャンルについて研究発表があった。

●宗門史・布教法要儀式・仏教学および仏教文化等のジャンルについて研究発表があった。宗門史・布教法要儀式・仏教学および仏教文化等のジャンルについて研究発表があった。

多くあったようである。

●本年1月8日付を以て、鷲山寺貫首藤田日浄現下が管長(門連顧問)に就任した。推戴式は、内局及び門末僧侶出席のもと、厳かに修行され、管長現下は、宗徒の道義を厳しく諭達された。(矢吹慈英)

本門佛立宗

●第125回・臨時

●臨時宗会第2日目は「佛立センター」に関して、開導百遠諱特別局長・小山日誠師より、センター用地の買取契約完了に至る、経過報告がなされ、「センター構想樹立委員会」の構想原案を、図面や立体模型などを示して紹介していた。

●21世紀社会に対応できる研究・研修施設や大学計画など、多くの夢の実現化へ積極的に討議していた。

●佛立開導日蓮聖人百回御遠諱大法要厳修を目前にして、百遠諱準備特別局を進展解消し、新たに「大法要奉修局」が発足した。奉修局は、総本部長に東京清雄寺の小山日誠師が選出され、5部20課が組織、教務両務から役員メンバーが構成された。

●門祖日蓮聖人の「五帖抄」を読み下し文にして脚註を施した「真訓両読・五帖抄」権大僧正金子日寿上人監修が、第5支庁教員団から刊行された。(深澤泉)

日蓮宗

●宗門の教育制度を

●宗門の教育制度を抜本的に見直し、あるべき教育制度の姿につき渋谷内局長は本年教育制度検討委員会(委員長豊慈璋師)に諮問し、委員会は鋭意検討を行ってきたが八月三十一日中間答申を渋谷宗務総長宛提出した。

●その主たる内容は教師資格を与える時点(修行道場)での教育、教師になって以後生涯に亘る教育など、各分野に対する教育の充実とそれら教育を荷う勸学院の拡充と、現代宗教研究所との統合など。

●社会教育指導講習会が十一月十日一日池上本門寺朗峰会館で開催された。

●発表大会」が熊本本妙寺に於て開催された。発表申込み四十四名、特別記念講演として立正大学北川前肇教授が「日蓮教学史における一妙院日蓮上人」を、また身延山短期大学町田是正教授が「綱導導師の宗学意識」をそれぞれ講演した。

●十一月十六・十七日、近畿教区教務研究会、於妙顕寺、講師は勸学院長長茂田井教亨師、同講学職冠賢一師

●十一月二十四・二十五日、東北教区教務研究会開催、於弘前法華クラブ、講師は勸学院長長茂田井教亨師、同講学職中野文海師。

●十一月三十日布教研修所修了式、於真間山弘法寺、修了者八名。八名の青年僧は六ヶ月間に亘り教務の学習、布教技術の習得、実践、切磋琢磨の僧堂生活を体験し、宗門布教の第一線に立つ。

●十二月七日・八日、九州教区教務研究会開催。於福岡法華クラブ。講師は勸学院講学職浅井円道師、同上田本昌師。

●宗門は本年度中に、戦前刊行された「日蓮宗年表」の増補改訂版(故影山堯雄師の遺稿を整理編集)を、日蓮宗新聞社より出版(A四判九〇〇頁)し、全寺院に配布を予定している。(富川孝恭)

国柱会

●8月に国柱会少年

●8月に国柱会少年少女夏期学校・本部主催を伊豆大島で開催。近畿地方、九州地方でもおこなわれた。

●8月27・28日、四国・松山で全国若人の集い松山大会が開催。平成元年は伊勢で開催することになった。

●九州地方ほか各地で田中智学先生五十回忌記念特別講習会を開催。

顕本法華宗

●布教研修会開催

●日什大正師第六百遠忌を平成3年に控え、宗門の現状分析と布教の再生をテーマに、関東、関西の2ヶ所に分かれて僧院布教研修会が開催された。

●高貴賢布教総監より、本宗の教風の伝統を護りつつ、時代相に敏感な視野を開き、あわせて僧道の日常生活の自戒を促す訓示に続き、特命布教師3名による布教報告、提言等がなされ、参加者の活発な意見交換がなされた。また、昨年7月開堂された、南米ブラジル顕本寺の海外布教所の現況と将来的展望が吉永宗務総長より報告され、御遠忌へ向けてより一層の布教体制の充実を図ることが確認された。

●ブラジル顕本寺へ特派布教師派遣が急務であった、ブラジル顕本寺専任布教師として現宗務院布教部長山本学人師(京都本正寺住職)が決定し、1月半ば渡伯した。半年間の日数ではあるが、現地檀信徒との交流や布教活動等、日本国内とは違った状況下、師の豊富な布教経験と情熱に活躍が期待される。(朝倉俊幸)

●「昭和大修繕」と銘うって62年6月に着手した本山要法寺本堂の大屋根修復工事は、予定どおり15ヶ月の工程を終えて、63年8月末日を以て完了。9月3日に施工者「松井建設株式会社大阪支店より引渡しを受けた。工費二億七千五百万円。

●本堂工事の完了した同本山では、隣接して建つ「開山堂」屋根の全面修復を引き続いて実施することになり、9月3日に起工式を奉修して着工。前日の第10回実行委員会では工事請負額を一億一千五百万円とし本堂と同じ松井建設と工事契約を締結したが、上層部(同堂は重層屋根)を全面的に解体して施工する必要がある。9月21日緊急に第11回実行委員会を開催、監理者「建築研究協会の助言も受け、上層部を解体のうえ施工し、耐久性強化のため構造の一部を改良することにした。工期は平成元年9月末日まで、10月13日に「両堂完工式」を奉修する予定。

●同実行委員会(原真昭師委員長)では、屋根修復工事に併せ付帯事業を行うことを決め既に着手。荘厳具等の補修は御宮殿、須弥壇、前机など堂内荘厳具の全部と、須弥壇上の絵天井(龍)、両脇の袖絵(花鳥)、扁額など、防災設備は消火栓、火災報知器、照明、放送の3点。

法華宗門流

●吉田新宗務総長の

●吉田新宗務総長の「も」と新内局発足。去る7月23・26日総本山本隆寺において臨時宗会が開催された。今春の開創五百年大法会が円成されたことにより、藤井宗務総長が勇退され、新宗務総長に吉田研宏上人が就任。その陣容は次の通りである。

●吉田研宏師 常任寺
総務部長 長鎌泰信師
大阪市此花区 海竜寺
教務部長 上嶋智岳師
兵庫県香取町 法琳寺
教化部長 左神信学師
兵庫県水上町 妙壽寺
社会部長 養輪漢玉師
福井県鯖江市 常在院
財務部長 小西法明師
奈良県橿原市 日宝寺
参与 上田浩岳師
京都総本山塔頭是好院
参与 吉田勝秀師
東京都新宿区真清浄寺

●第1・2・3種講習会開催される。去る8月24日より30日までの一週間、第1、2、3種の講習会が総本山に於いて開かれ、受講者50余名が出席した。管長現下、真枝学林長、堀内教授等の講義。西岡、井上両学監より、声明、法式作法、唱題行、作務等の実習を受けた。また、29日には、京都日蓮聖人門下連合会主催(本年度は当本隆寺が当番)の夏期大学に出席。

法華宗門流

●中央行学講習会開

●中央行学講習会開催。9月5・6日の2日間、「ホテル花巻」を会場に、宗内各教師の中央行学講習会が、約130名の参加者のもと開催された。講師は、宮沢賢治記念館副館長宮沢雄造先生によって、「宮沢賢治の生涯と作品」と題して講義をされ、第二講は、「前宗務総長水本大岳上人から、仏教儀礼と民俗」について講義をされた。

●三派、統合学院学生講座開催される。11月19・21日の3日間、法華宗門流宗務院内陣門講堂を会場に、三派統合学院学生講座が開催された。統合学院は、毎年前後期2回開講され、三派の青年僧を対象にした教育養成場である。講師は法華宗門流、宗務参与吉田勝秀上人が講義をされた。宗宝霊跡審議委員会報(宗宝第一次指定写真集)第一輯が発刊された。(江坂隆俊)

●宗務院、学院、大本山妙蓮寺の共同主催による教学研修会が10月26日より10月28日までの3日間、北陸地区で開催された。

本門法華宗

●本山妙蓮寺の共同主

●本山妙蓮寺の共同主催による教学研修会が10月26日より10月28日までの3日間、北陸地区で開催された。

●講習内容は富山大学教授中元昌年先生の「智と信仰」中村日宣貫首現下の「日蓮菩薩の行跡」中村重信上人の「現代人の法話探求」等の講演の外に北陸地区の各寺院、能登妙成寺の巡拝があり、有意義な研修旅行であった。

●なおこの研修会は昭和61年度の種子島研修に始まり北陸研修で3回目である。各地区の布教及び当地での先師聖人の足跡にふれながらの教学研修旅行であり今回は40数名の参加者があった。(持地光学)

日蓮聖人門下連合会

●目的

●目的 本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業 本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他
●加盟団体
日蓮宗 法華宗本門流
顕本法華宗 法華宗門門流
本門佛立宗 日蓮本宗
法華宗門門流 本門法華宗
国柱会 日本山妙法寺
京都門下連合会



●激励の昭和に別れを告げ、平成を迎えた。
●大行天皇の御行跡・御人柄は日を追うにつれ日本人に感銘を深めさせる。嗚呼哀哉。
●第一面で報道した「大阪日蓮聖人門下懇話会」の結成はともすれば沈みがちな本年頭において明るさが感じられる。
●また編集委員による座談会は本紙の持つ意義に対し、再認識させられる点が多い。パワーも感じられる。

●各派短信は前号あたりから、報道量が多く、誠に申し訳ないことだが、一部要約、割愛の止むなきものがある。お許しねがいたい。
●御本山巡りは好評を得ている。本紙をガイドに巡拝される方もおられる。活用を期待したい。